

【実務経験のある教員一覧】

教員名	担当科目名	単位数		開講 年次	備考
		通信	面接		
渡邊 暁	社会福祉	2		1 年次	
	社会的養護Ⅰ	2		1 年次	
	社会的養護Ⅱ		1	2 年次	
	子育て支援		1	2 年次	
	子ども家庭支援論	2		2 年次	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）		1	2 年次	
	保育実習Ⅰ（施設）		2	2 年次	

【担当科目に関連した実務経験】

ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として医療法人に勤務し、法人が実施する地域福祉支援を担当した。所属した医療法人では理事長の日本医師会副会長・日医総研所長のリーダーシップのもと、医療と福祉（高齢者、障がい児及び障がい者、社会的養護を必要とする子どもが暮らす地域）との連携のあり方に注目し、法人に所属する社会福祉士として、率先して地域福祉ネットワークの構築、協働を図る体制づくりを推進していた。

その中で、とりわけ子育てをしている母親たちへの居場所作り、具体的には公民館との協働によるコミュニティカフェと子育てに対する悩み相談、加えて経済的な不安定、非行や虐待などの問題の程度に応じ社会的養護・社会保障制度におけるサービスの情報提供を行った。

例えば社会的養護を必要とする経済的に苦しく生活保護を申請したいという母子家庭の母親に対して、福祉事務所のケースワーカーと公共職業安定所職員が役割を分担して、母親の支援を行ったり、地域の高齢者や高齢者施設入所者と、地域の保育園・幼稚園との世代の枠を超えて子どもを支えていく世代間交流事業、高齢者の経験、助言による子育て支援の場づくりに努めた。

さらに、法人内の病院や高齢者施設で医療福祉系（看護師・社会福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士等）の実習を受け入れ、対人援助の基本姿勢や心構え、業務手順の説明、反省会の開催、実習日誌の書き方、個別支援計画の作成などについて、実習生に指導した。

以上のような医療福祉機関での実務経験をもとに、「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「子育て支援」「子ども家庭支援論」「保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（施設）」について講義する。

教員名	担当科目名	単位数		開講 年次	備考
		通信	面接		
橋本 翼	教育相談	2		2年次	
	幼児への特別な支援	1		2年次	
	障害児保育		1	2年次	
	青年心理学	1	1	2年次	

【担当科目に関連した実務経験】

臨床心理士の資格を有し、精神科病院における小児外来で3年勤務し、発達障害児（知的障害、ADHD、ASD等）の知能検査の実施、カウンセリング、発達障害を抱える保護者へのカウンセリングを行ってきた。

その後11年間公立小、中、高校でスクールカウンセラーとして勤務しており、不登校児童生徒のカウンセリングや、教師へのコンサルテーション、青年期の中、高校生のカウンセリングを行い、いじめ、不登校、自殺、精神疾患等の問題の取り組みを行ってきた。

また、現在保育園における発達障害児を含む「気になる子」の支援に関してフィールドワークや保護者のカウンセリングも行っており、担当する「教育相談」「幼児への特別な支援」「障害児保育」「青年心理学」については、実務経験をもとに幼児教育・保育現場における、カウンセリングマインドに基づく幼児理解や保護者支援の在り方、関係機関との連携に関して学生が体験的に学べる授業を行う。

教員名	担当科目名	単位数		開講 年次	備考
		通信	面接		
神近 裕樹	保育の心理学	2		2年次	
	子ども家庭支援の心理学	2		2年次	

【担当科目に関連した実務経験】

臨床心理学をベースに日頃より、臨床心理士指定大学院内に設置されている相談室にて乳幼児から成人のクライアントの心身の発達や不登校などの不適應への相談支援等を行っている。

また、乳幼児から思春期の児童および保護者の支援を行う精神科病院にて、療育やカウンセリング、保護者面接等も行っている。

さらには、スクールカウンセラーとして小・中学校へ赴き、児童・生徒らのカウンセリング、そして保護者への相談援助を行い、ケースによっては、個人ではなく家庭全体へ対して他職種と連携してケースワーク的な働きを行うこともある。

以上の実務経験より、担当する「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」において保育や子ども、そして保護者を含む家庭全体を心理学の視点からどのように理解し支援を行っていくか、また、相談援助を行う上で必要となるカウンセリングの技術も混じえながら伝えていく。

教員名	担当科目名	単位数		開講 年次	備考
		通信	面接		
坂口 美由紀	乳児保育Ⅰ	2		専攻科	
	乳児保育Ⅱ		1	専攻科	

【担当科目に関連した実務経験】

乳児保育の科目では、0・1・2歳児の子どもへの対応や保育内容だけでなく、乳児保育が求められるようになった歴史や社会背景を踏まえ、保護者や関係機関とどのように連携を取りながら、保育者として子どもの健やかな成長を支えるために必要とされる知識や技能について幅広く学びます。

保育者が子どもの安心・安全を守りつつ、見通しを持った保育計画、適切な関わりや活動を準備して質の高い保育を実践するには、まず子どもの発育・発達の道筋、発達課題に応じた環境とは何かを知ることです。また子どもにとって家庭環境は最も重要なものであり、保育者は日常的に保護者と協力しながら子どもの成長を支えています。必要に応じて子育てを支える制度や支援機関を紹介したり、その機関と連絡を取り合ったりすることも出てきます。さらに0・1・2歳児の時期には、子どもの発達の遅れや障がい、虐待などの発見過程に出会うこともあり、迅速かつ適切な対応を求められます。このように保育士とは、子どもと子育てに関する高い専門性を有することはもちろん、関係者とチームで協力し合うためのコミュニケーション力も必要なのです。

私はこれまでに、療育センターや発達障がい者支援センターなどの公的機関や個人開業等の相談・療育支援の現場に20年以上携わり、0～6歳までの障がい幼児への心理判定（発達検査等の実施）、障がい幼児を持つ保護者への発達相談、障がい幼児と保護者を対象とした療育グループの運営、保護者向けの学習会の講師等々、さまざまな業務を行いました。現場では保育士を始めとした多職種が連携しながら親子を支えるとともに、幼稚園・保育所と連携を取ったり、児童相談所・保健センター・医療機関等、地域の自治体や関係機関と情報共有したりと、関係者間で協力、調整し合う機会も数多くありました。

携わっている現場は障がい者が主ですが、障がい特性や対応は一般の子育てに通じ、発達検査の施行には一般的な発達過程の知識は必須です。チームで関わること、現代社会の子育て事情や制度の変遷、社会問題などに精通していることも共通しており、社会情勢や最新の研究動向について日々の情報収集は欠かせません。

そのような現場での実務経験を元に、担当する「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」では、子どもの発達やその対応、保護者支援、関係者との連携、社会制度の仕組みや変遷、障がいや虐待など、保育士の専門性に必要な知識や技能習得をねらって、レポートや試験、スクーリングの講義の内容を組み立てています。またスクーリングには演習を取り入れる等、コミュニケーションをとりながらチームで協力し合う経験と意義を学ぶ機会になればと考えます。

【領域及び保育内容の指導法に関する科目】

【科目名】 幼児と健康	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 ・「今の時代を生きる子供たち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明ができる。 ・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。 ・運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。	
【授業概要】 グループワークを中心とした指導計画の作成を通して運動あそびに関する実践的指導力の向上を図る。また、乳児期や幼児期の運動や健康に関する理論学習を通して就学前体育の実践課題についても検討する。	
【授業計画】 1 日目 第 1 回：乳児と幼児の運動発達と健康 第 2 回：現代社会における運動あそびと健康の意義 第 3 回：運動あそびの指導計画の作成—幼児体操— 第 4 回：グループワーク（幼児体操についての情報収集） 第 5 回：グループワーク①の発表会 2 日目 第 6 回：運動あそびの指導計画のテーマ検討 第 7 回：指導計画のテーマについての情報収集（図書館） 第 8 回：指導計画のテーマについての情報収集（インターネット） 第 9 回：発表会① 第10回：発表会②と全体の振り返り	

【科目名】 幼児と人間関係	【単位数】 1 単位（通信）
【授業の到達目標】 ①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。 ②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。 ③子どもの自律性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。	
【授業概要】 領域「人間関係」に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。	
【授業計画】 ①仲間集団と道徳性の育ち ②子どもが自己表現できる集団づくり—保育者の関わり方の基礎 ③集団のなかでの「特別な支援」—ジレンマを越えるには ④保育者との信頼関係 ⑤地域社会の人々との交流 ⑥「人と関わる力」と子どもの成長 ⑦地域社会の変容—戦後～高度成長期 ⑧地域社会の現状—都市化・個人化・地域の自治組織 ⑨家庭環境の変容—核家族化としつけ ⑩家庭環境の現状—家庭支援の必要性 ⑪発達過程に応じた人との関わり	

【科目名】 幼児と環境	【単位数】 1 単位（通信）
【授業の到達目標】 幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境とかわる力」の発達について理解する。領域「環境」の変遷についての学修を通して、子どもの育ちにとって大切にされているものを知る。自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。	
【授業概要】 幼児教育の基本及び領域「環境」のねらい・内容・変遷について学修する。「環境にかかわる力」の発達について学修する。保育の実践例を通して具体的生活体験を重視した保育指導力を養い、実践上の留意点を考慮した総合的な指導力を養う。	
【授業計画】 ①保育の基本と保育内容 ②領域「環境」のねらいと内容 ③「環境とかわる力」の発達 ④「環境とかわる力」への理解 ⑤領域「環境」と保育方法 ⑥領域「環境」の変遷 ⑦領域「環境」と保育の実例Ⅰ（自然・身近な物） ⑧領域「環境」と保育の実例Ⅱ（文字・数量・地域社会） ⑨領域「環境」と実践上の留意点Ⅰ（自然） ⑩領域「環境」と実践上の留意点Ⅱ（身近な物・文字・数量）	

【科目名】 幼児と言葉	【単位数】 1 単位（通信）
【授業の到達目標】 ・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける。	
【授業概要】 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける。	
【授業計画】 ①言葉の意義や機能 ②言葉の発達と理解 ③絵本を生かした保育と絵本の紹介 ④お話作り ⑤幼児における児童文化財の意義 ⑥子どもの言葉と表現力 ⑦読み聞かせの意義と魅力 ⑧読み聞かせの実践における工夫 ⑨言葉を楽しむための言葉遊び、文字遊び ⑩言葉の発達と表現力	

【科目名】 幼児と音楽表現	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 ・「声」についてのイメージを深め、発声法、表現法を習得する。 ・器楽（ピアノ伴奏、楽器演奏）の基礎的な演奏法を理解し、演奏技術の向上を目指す。 ・基礎的な楽典を理解し、読譜ができる。 ・教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示することができる。 ・器楽合奏におけるパート譜の作成ができる。	
【授業概要】 子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし、音程の感覚を養う。弾き歌いの取組と歌唱に伴うピアノ伴奏も行いアンサンブル力を養う。楽典を解説し読譜練習や作品解釈を行う。音楽表現の向上と表現方法についても検討する。	
【授業計画】 1 日目 第1回：発声のメカニズムと発声法・ピアノ伴奏の役割 第2回：コンコーネの歌唱（ヴォカリーズ）・ピアノエチュード・譜表と音名・音符と休符 第3回：コンコーネの歌唱（階名唱）・〈生活の歌〉の歌唱と伴奏法・拍子とリズム 第4回：コールユーブンゲン（2度・3度）・〈季節の歌〉の歌唱と伴奏法・リズム打楽器奏法 第5回：コールユーブンゲン（4度・5度）・リズム譜の作成・音程 2 日目 第6回：〈自然の歌〉の歌唱と伴奏法・長音階・リズム楽器演奏 第7回：〈集い・行事の歌〉の歌唱と伴奏法・和音とコード奏 第8回：わらべうた・弾き歌い 第9回：輪唱・遊び歌 第10回：子どもと音楽活動の現在・全体の振り返り	

【科目名】 幼児と造形表現	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 周囲の世界を全身の感覚器官を通して感じ、心身ともに成長していく幼児期において、共に感動し、表現する保育者も、子供を育てる大切な環境です。保育者が幼児一人一人の自己表現を受容し、理解できる援助者である事は、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。本講義では、学生諸君が様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む事で、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守ることができる保育者の育成と、実践的造形教育指導の習得を目指します。	
【授業概要】 実技課題として身近な素材を使った美術表現技法体験による基礎技法の習得、その応用として、技法体験作品を素材としたオリジナル作品制作、完成作品の発表と鑑賞を行う。講義では、幼児画の発達過程と特徴の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。また、定期試験を行う事で理論から実践まで保育における造形表現活動について教授する。	
【授業計画】 1 日目 第1回：美術表現技法 1 「身近な素材を使って制作：教材①」 第2回：美術表現技法 2 「身近な素材を使って制作：教材②」 第3回：美術表現技法 3 「身近な素材を使って制作：教材③」 第4回：講義「幼児画の発達過程」0歳～3歳の子どもの絵 第5回：講義「幼児画の発達過程」3歳～6歳の子どもの絵と造形 2 日目 第6回：講義「幼児画の特徴・縦断的作品」子どもの作品から見えてくるもの 第7回：美術表現技法の応用 1 「素材と技法の活用」 第8回：美術表現技法の応用 2 「創作への展開」 第9回：美術表現技法の応用 3 「オリジナル作品制作」 第10回：美術表現技法の応用 4 「作品発表と鑑賞・まとめ」	

【科目名】 健康（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 ・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動遊びの指導法、②基本的生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動）および指導法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。	
【授業概要】 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。心理学、教育学、保育学、医学の諸領域による知見を理解することにくわえ、新聞やインターネットなどの情報から現代的な課題を探究する。	
【授業計画】 1 日目 第1回：幼稚園教育要領における「健康」領域の概要と指導法 第2回：幼稚園教育における評価法－「運動あそび」を中心に－ 第3回：幼児期の健康と安全とその後 第4回：幼児の運動あそびと発達を踏まえた教材研究 第5回：情報機器を活用した「健康」指導法 2 日目 第6回：運動遊びの指導計画の作成 第7回：模擬保育 第8回：模擬保育の振り返り 第9回：健康だよりの作成に向けた情報収集と制作 第10回：基本的生活習慣に関する保育内容と指導法と全体の振り返り	

【科目名】 人間関係（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解する。また、領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。	
【授業概要】 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	
【授業計画】 1 日目 第1回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本 第2回：領域「人間関係」のねらいと内容並びに構造 第3回：領域「人間関係」内容と指導上の留意点 第4回：幼稚園教育における「幼児理解と評価」 第5回：幼稚園生活の経験と小学校以後の生活や教科の関連 2 日目 第6回：幼児の認識・思考、行動を踏まえた教材研究（遊びの構想） 第7回：模擬保育のための教材研究 第8回：模擬保育のための指導案作成及び反省（改善） 第9回：「自立心」、「協働性」を育てるための保育実践（情報機器の活用） 第10回：「道徳性・規範意識の芽生え」を育てるための保育実践（情報機器の活用）	

【科目名】 環境（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 領域「環境」のねらいを念頭に、様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術・ICT機器の活用法を習得する。子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。	
【授業概要】 子どもの発達における環境の重要性や幼稚園教育における評価、小学校の科目との繋がりについて理解し、領域「環境」のねらいについて学習する。様々な環境にかかわる保育の内容及び指導（ICT機器の活用を含む）について実践例とともに学ぶ。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。	
【授業計画】 1 日目 第1回：幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容、構造 第2回：領域「環境」の内容（1～11）と指導上の留意点 第3回：幼稚園教育における評価と領域「環境」 第4回：領域「環境」と小学校科目とのつながり 第5回：幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想 2 日目 第6回：領域「環境」のねらい達成に向けたICT機器の活用法 第7回：動植物園での模擬保育に向けた指導案の作成 第8回：動植物園での模擬保育（作成した指導案による実践、グループワーク） 第9回：動植物園での模擬保育の振り返り 第10回：教材研究：身近な自然・身近な事象・地域社会にかかわる保育実践	

【科目名】 言葉（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 ・領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	
【授業概要】 領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深め、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	
【授業計画】 1 日目 第1回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本。領域「言葉」のねらい及び内容の考え方 第2回：領域「言葉」の内容（1～5）と指導上の留意点 第3回：領域「言葉」の内容（6～10）と指導上の留意点。内容の取り扱い 第4回：幼稚園教育における理解と評価 第5回：幼稚園生活の経験と小学校以降の生活や学習との関連 2 日目 第6回：幼児の発達を踏まえた教材研究（言葉あそび、絵本、紙芝居） 第7回：模擬保育の構想とICT活用の理解 第8回：模擬保育のための指導案作成 第9回：模擬保育の実践と振り返り 第10回：配慮を要する子どもの言葉と支援。多文化理解と言葉	

【科目名】 造形表現（指導法）	【単位数】 2 単位（通信・面接）
【授業の到達目標】 幼稚園教育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	
【授業概要】 ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。 ・造形表現の技法、身近な素材から教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法と、造形表現の基礎教養を各課題と体験、資料配布と定期試験を行う事で教授する。	
【授業計画】 1 日目 第 1 回：幼稚園教育の基本、「表現」領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解 第 2 回：「表現」領域のねらい及び内容、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解 第 3 回：幼稚園教育における評価の理解 第 4 回：「表現」領域において幼児が経験する内容の関連性と小学校の教科等とのつながりの理解 第 5 回：幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた表現領域における保育構想の重要性と理解 2 日目 第 6 回：「表現」領域の特性、幼児の体験との関連を考慮した保育における情報機器及び教材の活用法 第 7 回：指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解 第 8 回：模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解 第 9 回：「表現」領域の特性に応じた保育実践の動向と保育構想の向上への取り組みと理解 第10回：「造形と表現」実体験からの創作と表現	

【科目名】 音楽表現（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。音楽表現の観点から幼児の発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。	
【授業概要】 「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。	
【授業計画】 1 日目 第 1 回：教育要領、保育指針における領域「表現」 第 2 回：幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点 第 3 回：幼児の理解と評価 第 4 回：音楽表現あそびの教材研究及び情報機器を活用した教材研究 第 5 回：音楽表現あそび（手あそび・歌あそび） 2 日目 第 6 回：表現あそびの指導計画（指導案作成） 第 7 回：模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り 第 8 回：小学校音楽の授業につながる音楽あそび（歌かるたあそび） 第 9 回：様々な素材を使った音楽あそび（音作りあそび、音描きあそび） 第10回：様々な素材を使った音楽あそび（音描きあそび）	

【科目名】 劇あそび（指導法）	【単位数】 1 単位（面接）
【授業の到達目標】 ・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。 ・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。 ・子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身に付ける。	
【授業概要】 領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。	
【授業計画】 1 日目 第 1 回：領域「表現」のねらいと内容 第 2 回：身ぶり表現の発達 第 3 回：身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方 第 4 回：教材研究及び情報機器の活用 第 5 回：「劇あそび」の意義と役割・小学校教育とのつながりを踏まえて 2 日目 第 6 回：「劇あそび」における援助（イメージの実現・環境の設定・人との関わり） 第 7 回：「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成（表現あそび課題説明） 第 8 回：「劇あそび」の模擬保育 第 9 回：模擬保育の振り返り 第 10 回：表現を育てる保育	

【教育の基礎的理解に関する科目】

【科目名】 教職概論	【単位数】 2 単位（通信）
【授業の到達目標】 今日求められている幼稚園の役割や使命及び教職の社会的意義を理解する。 幼稚園教諭として求められる役割や教師としての資質力量について理解する。 教師の職務内容や服務などを理解する。 組織として学校内外との連携や諸課題への対応への重要性を理解する。	
【授業概要】 教職の意義や教師の役割などの基本的事項の理解の上に、教師にとって必要不可欠な資質力量や職務内容のあり方への考察を深める。	
【授業計画】 ①教師の職業的特徴とその社会的存在 ②教職の歴史と教職観の変遷 ③教師として形成すべき資質力量 ④教師の服務義務と身分保障について ⑤教育という仕事における教師の存在 ⑥子ども理解に基づく指導と教師の職務について ⑦教師としての成長—研修について ⑧諸課題への組織的な取り組みについて—チーム学校運営として—	

【科目名】 教育原理	【単位数】 2 単位（通信）
【授業の到達目標】 教育の基本的概念や諸理念を理解し、教育の歴史や思想に関する基礎的知識を習得する。また、教育及び学校の営みの変遷を理解する。併せて、現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身に付け、学校と地域の連携及び学校安全への対応について理解を深める。	
【授業概要】 教育の基本的概念や諸理念について学び、教育の歴史及び様々な思想を実際の教育及び学校との関わりの視点で理解する。また、社会の状況と学校教育の関係を理解し、教育政策の動向を把握する。さらに、現代の公教育の制度の意義・原理・構造についてその法的・制度的仕組みと課題を理解する。併せて学校と地域との連携・協働及び学校安全と危機管理について理解を深める。	
【授業計画】 ①教育学の諸概念及び教育の目的・目標 ②教育の構成要素（子ども・教師・家庭・学校）とその相互関係 ③家族と社会による教育の歴史 ④近代国民国家の成立と教育制度：西欧と日本の歴史的経緯 ⑤現代社会における教育課題：変容する「家族」・「学校」と子どもの生活 ⑥家庭や子どもに関する教育思想：「子ども観」の歴史的変遷 ⑦学校や学習に関する教育思想：ルーマン「教育システム論」、イリイチ「脱学校の社会」 ⑧近年の教育政策の動向：「教育改革」の現状と課題 ⑨公教育の原理及び理念 ⑩公教育制度と教育関係法規 ⑪教育制度と教育行政の理念と仕組み ⑫地域との連携・協働と学校教育活動 ⑬開かれた学校づくりの意義と課題 ⑭学校安全と危機管理	

【科目名】 教育心理学	【単位数】 1 単位（通信）
【授業の到達目標】 子ども達の最も近くに居る者の一人として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。そのために①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成することを到達目標とする。	
【授業概要】 本講義は、特に幼児期を中心に、生涯（特に青年期まで）にわたる変化の理解に向けて、子どもの発達（育ち）と学習（学び）の過程を学ぶことを目的とする。これらの事象は個に閉じた事象ではなく、取り巻く環境に支えられていることも見逃せない。本講義では、多様な子どもたちが多様な環境の中で何をいかに学び・育ち、またいかにそれらの場で「躓き」の体験をするのか、またその場に居合わせる大人としてできることは何か、多様な例を通じて考え進めていく。	
【授業計画】 1 日目 第1回：「学びの場の中の子ども」——発達に関する基礎概念 第2回：発達（1）発達論①—運動・認知発達について 第3回：発達（2）発達論②—ことばと社会性の発達 第4回：学びと遊びと環境——主体的な学びを支えるものと発達 第5回：学習の基礎（1）記憶——知識と問題解決 2 日目 第6回：学習の基礎（2）学習理論 第7回：学びや探求を支えるもの——動機づけ・集団づくり・学習評価 第8回：学習指導・発達支援の基礎（1）学び育つ者と教え育む者の関係論 第9回：学習指導・発達支援の基礎（2）学びと育ちの多様性 第10回：学習指導・発達支援の基礎（3）教育と支援・試験	

【科目名】 幼児への特別な支援	【単位数】 1 単位（通信）
【授業の到達目標】 ・インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児（知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等）の心身の発達と心理的特性および学習の過程を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について理解する。 ・関係機関・家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する。	
【授業概要】 特別支援教育に関する制度の仕組みに関して学んだ後、各障害のある幼児の発達や特性、教師の支援の方法について学んでいく。また、個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成の基礎について学ぶ。また、教師が他機関や家庭と連携して特別の支援を必要とする幼児を支援する際の留意点についても学ぶ。	
【授業計画】 ①特別支援教育に関する理念や制度の仕組みについて説明できる。 ②発達障害児、知的障害児の発達と学習の過程について理解する。 ③視覚障害児、聴覚障害児、肢体不自由児、病弱児等の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を理解する。 ④特別な支援を必要とする幼児への支援の方法について例示できる。 ⑤「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する。 ⑥個別の指導計画と個別の教育支援計画を作成するための基礎的な知識を習得する。 ⑦園内連携と家庭および関係機関との連携の必要性について説明できる。 ⑧母国語や貧困等の問題により特別な教育的ニーズのある幼児の生活上の困難や組織連携の必要性について説明できる。	

【科目名】 教育課程総論	【単位数】 2 単位（通信）
【授業の到達目標】 幼稚園における教職課程の役割や意義について理解する。 教育課程及び指導計画についての基本原理とその編成及び作成の方法について理解する。 カリキュラム・マネジメントについての意義を理解する。	
【授業概要】 教育課程及び指導計画の基本的な考え方を理解した上で、それらの編成及び作成の基本原理と方法論に関する知識を深め、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。	
【授業計画】 ①幼稚園教育要領の法的意義について ②幼稚園教育要領の歴史的変遷について ③教育課程の社会的役割と機能について ④教育課程における教育内容の精選・配列とその作成について ⑤教育課程編成の基本的な考え方について ⑥子どもや地域の実態を踏まえたカリキュラムの検討について ⑦カリキュラム・マネジメントの意義と重要性について ⑧カリキュラム改善と評価の考え方について	

【道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目】

【科目名】 教育方法論	【単位数】 2 単位（通信）
【授業の到達目標】 ①乳幼児期の教育方法の基本原則を理解し、説明できる。 ②①を踏まえ、遊びを通した具体的な実践を計画できる。 ③子どもの意欲を高める保育者の関わりの必要性を理解し、実践に活かすことができる。	
【授業概要】 乳幼児期の教育の基本原則の理解に重要なテーマについて理解し、子どもたちにとって魅力的な教育活動を計画・実践するための知識と技術を習得する。	
【授業計画】 ①子どもの意欲を高める保育者の関わり―保育者の子どもへの関わり方 ②子どもの意欲を高める保育者の関わり―活動における導入・展開・まとめ ③乳幼児期の教育における情報機器の活用―リテラシーとモラル ④乳幼児期の教育における情報機器の活用―教材の作成 ⑤乳幼児期の教育は子どもたちの何を育てるのか？―認知能力と非認知能力― ⑥一斉教授と経験的カリキュラム―効用と問題点、乳幼児期の教育の特徴 ⑦乳幼児期の教育方法の重要事項―「遊び」・「環境」 ⑧主体的・対話的で深い学び ⑨教育の評価―乳幼児の育ちをみる視点と改善 ⑩設定保育指導案の作成・自己評価・改善	

【科目名】 教育相談（カウンセリング・幼児の理解を含む）	【単位数】 2 単位（通信）
【授業の到達目標】 ・ 幼児理解の意義・方法について理解し、幼児理解と発達・学びとの関連性を理解する。 ・ 幼児理解を個と集団の視点から理解する。 ・ 幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。 ・ カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な態度・技法を理解する。 ・ 幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。 ・ 保護者へのカウンセリングマインドを生かした子育て支援に関して理解する。 ・ 教育相談を勧めるための組織整備や多職種との連携に関して理解する。	
【授業概要】 幼児理解の基礎的な知識（理論、目的、方法）について学んだ上で、幼児理解の視点を生かした教育相談の方法に関して学んでいく。さらに集団と個の理解の関連性について学んだ上で、幼児の発する様々な不応答、問題行動への心理学的な理解を深め対応に関する基礎的な方法を習得する。その上でカウンセリングの様々な技法（傾聴、受容、共感的理解等）を学習し、幼児教育の現場において幼児、保護者に教育相談を行うための手順や方法について学ぶ。園内連携や他機関との連携に関する留意事項についても学ぶ。	
【授業計画】 ①幼児理解に必要な知識の習得 ②幼児理解の視点を基にした子どもの発達・学習のプロセスの理解 ③幼児理解の視点に立った教師の姿勢・態度に関する理解 ④教育相談の基礎的な知識の習得 ⑤教育相談に関わる心理学的知識の習得 ⑥幼児の不応答や問題行動の理解と対処の基礎に関する理解 ⑦観察と記録の意義や幼児理解の目的に即した観察法等の事例について説明できる ⑧幼児理解を個と集団の関連から説明できる ⑨幼児期の不応答等の問題を人間関係や家庭環境の視点から理解する ⑩幼児期の保護者の心理について理解し支援の基本的態度について説明できる ⑪幼児教育におけるカウンセリングマインドの意義について説明できる ⑫カウンセリングの基本的な技法（受容・傾聴・共感的理解）について理解する ⑬幼児及び保護者に教育相談を行う際の目標設定や進め方について説明できる ⑭幼児期の不応答や問題行動に応じた教育相談の進め方について説明できる ⑮教育相談の計画・園内の支援体制の整備の必要性について理解する ⑯他機関との連携（医療・福祉・心理など）に関する基礎的な知識を理解する	